

鉄道の発達と生糸

～横浜港と養蚕・製糸・織物をつなぐ～

C-1-1-5
養蚕製糸

【 対象 】 一般教員、司書教諭、司書、児童・生徒
一般 他

【 時間 】 50分

【 会場 】 多目的ルーム、会議室、教室など

【参加者の持ち物】
筆記用具
など

【準備】 地図 シール
キット 4-0 4-1-1 4-1-2 4-1-3 4-2-1-1
4-2-1-2 4-3-1 4-3-2-1 4-3-2-2 3-0-1-1
3-0-3 2-11

【 講師 】 不要

【 活動の流れ 】 *ワークシートは各校で作成

- ① 「養蚕」「製糸」「絹織物」の流れを確認する。
※ 養蚕する→蚕を集積→糸にする（製糸）→絹織物へ
- ② 資料からそれぞれが取り上げられている場所を抜き出す。
記事で扱われている場所・内容をワークシート等に記載する。
- ③ 地図の駅名に織物・製糸・養蚕を色別のシールで貼る。駅がない場合は地域の場所に貼る。
- ④ 完成した地図から思ったこと・発見したことをワークシートに書き、意見を交流する。
※指導者「鉄道網はなぜ発達していったのか」を投げかける。日本最初の新聞の内容が生糸の取引だったことを指摘する。
中央線（甲武鉄道） 横浜線（横浜鉄道） 高崎線（日本鉄道）
上信鉄道（上野鉄道） 碓氷線 赤羽線 八高線 等
生糸を運ぶために発達

【 その他 】 鉄道網の発達は、養蚕地・製糸場を経て生糸や絹織物になったものを横浜に早く運ぶために必要だったことを学びます。現在過疎である地域になぜ鉄道が敷かれたのか、そして廃線が起こっているのかを考えるきっかけになります。